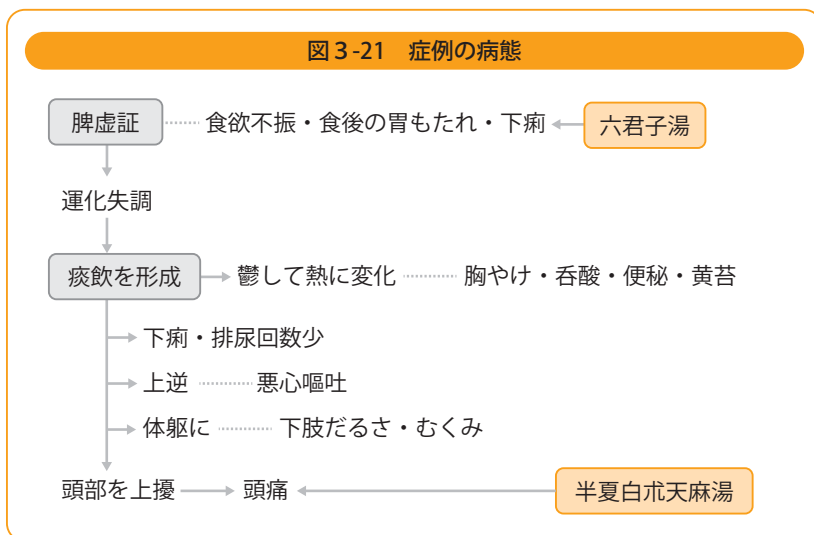


ある六君子湯を投与して効果を上げることができた（図3-21）。

初診時の人參湯と呉茱萸湯は、頭痛時の悪寒冷感・嘔吐・腹部冷感などから虚寒証と判断したためである。しかし、これらは末梢的な症状であり、夏季の頭痛発作という特徴的な症状から導かれる痰飲の存在を考慮しなかったための誤治であった。このように、よく症状を観察し理論によってそれを構築し直すことが重要である。



### ■半夏白朮天麻湯について

本方の基本構成は、二陳湯に白朮と天麻を加えたものである。二陳湯は痰や湿を除去する（化痰・祛湿）作用があり、脾胃への痰貯（脹満感・下痢・悪心・嘔吐など）や肺の貯溜（白色多量の痰や咳・胸悶感など）、そのほか眩暈・動悸などさまざまな痰飲証に対して使用される基本方剤である。

白朮は脾虚証を、天麻は肝風と痰による眩暈や頭痛をそれぞれ改善す

る作用がある（釣藤散の主薬である釣藤鈎は、祛痰作用が弱い）。したがって、本剤は脾虚証により痰飲を生じ、さらにこの痰飲と肝風により眩暈や頭痛が出現した病態を治療するものである。

食欲不振・胃もたれ・下痢などの脾虚証，元気がない・自汗・倦怠感・四肢冷感といった気虚症状の人で，嘔吐・悪心を伴うめまい・頭痛に使用することができる。このとき，舌は痰飲の存在を示す白膩苔が多く，脈診は弦滑であることが多い。

なお本剤のエキス剤には，さらに人参・黄耆の補気健脾薬や麦芽といった消化薬が入っており，より虚証の強い場合に使用できる。

本剤は，脾虚証症状があり白膩苔を伴うメニエール症候群などの眩暈に対して，まずはじめに試みてよい方剤である。また本剤は，眩暈以外にも痰飲の頭痛に対しても使用することができる。

### 3 ひしょう 痺証（痺証）

関節や筋肉の疼痛・腫脹・しびれ・倦怠重圧感・運動障害などが出現した疾病を痺証（痺証）<sup>†</sup> **注7** という。関節リウマチやその他の種々の関節炎などが痺証に相当する。

#### (1) 痺証の発生（図 3-22）

痺証の発生は次のように考えられている。生命力・抵抗力（正気<sup>†</sup>）が低下すると，生体を取り巻く風・寒・湿・熱などの自然現象が邪となり，体表を襲い体表に取り付く。これを取り除けないと，邪は筋肉・関節・経絡に入り込む。この邪により気血の運行が妨げられて痺証が発生する。痺とは閉じるの意味で，阻止され通じないという本病の病態より名づけられたものである。

強い寒気にさらされる・長時間雨に打たれる・湿地に居住しているなどによって，関節や筋肉の疼痛やだるさ，筋運動が困難になるなどは日